

東青管内の学校支援状況



1 学校支援状況の概要

東青管内では、各市町村で学校支援地域本部事業が実施されています。事業実施の学校では、学校支援に関わる人材の掘り起こしがコーディネーターを中心に行われるようになり、コーディネーター自身が学校支援のためのコーディネートの仕組みを構築しつつあります。学校と地域を結ぶための調整役としてのコーディネーターの役割が、今後ますます重要になります。

2 学校支援地域本部事業実施校の取組から

(1) 事業実施市町村や実施校の特色について

コーディネーターが、学校と地域を結ぶための調整役としての役割を果たすためには、コーディネーター自身が学校と地域の身近にいて、その存在を地域に知ってもらわなくてはなりません。東青管内のコーディネーターは、市部の学校では余裕教室等に、郡部の学校では公民館や公立図書館にその居場所があります。このことにより、教職員と地域の方との接触機会が多くなり、学校と地域を密接につなげる様々な取組が行われています。

青森市戸山西小学校、戸山中学校では、情報紙で他校のボランティアの取組を紹介し、小学校版、中学校版として、教職員全員に配布しています。平内町東小学校では、ボランティアが学校に来やすいように打ち合わせ日を毎月「6日」に設定しています。

(2) 読み聞かせ・学校図書館支援について

事業実施校のほとんどでは、読み聞かせや学校図書館支援に関するボランティア活動が行われています。青森市浦町小学校、浦町中学校では今年度、図書ボランティアの育成に重点を置き、講習会の実施や他校の読み聞かせ活動の見学を行い、9月から「読み聞かせボランティア」と「図書整備ボランティア」の活動をスタートさせています。

(3) 学習支援分野について

実技を伴う学習や校外学習の引率等のサポートが行われています。

青森市三内西小学校では、最初のきっかけは学校からボランティアへの点字図書の選定の依頼でしたが、ボランティアと教職員との打ち合わせの中で、児童が点字体験することへと広がり、実際に視覚障害者が使用する道具や簡易点字器を使った授業となりました。

(4) 文化活動指導、スポーツ活動指導について

今別小学校では、荒馬保存会による伝統芸能の継承指導が行われています。また、多くの学校では、野球、ミニバスケットボール、バスケットボール、卓球、バレーボール、陸上等、主に運動部の指導にボランティアが関わっています。

(5) 安全パトロールについて

青森市浦町小学校、東小学校、蓬田小学校では下校見守り活動を行っています。青森市油川小学校では、安全ボランティアとして正門前での安全確保を行っています。



(6) 校外・校内環境整備について

環境ボランティアとして主に草刈りやペンキ塗りが行われています。東小学校では、雪囲い、外ヶ浜町平館小学校では、庭木の手入れを行っています。また、蓬田小学校では、スクールバス停の修理と清掃を行っています。

(7) その他

東小学校では、校外学習、学習発表会、陸上競技大会、野球大会、卓球大会、ふるさと交流会など各学校行事について、PTAや地域の方が学校行事ボランティアと称して、様々な面から支援に関わっています。今別中学校では、文化祭食堂の食券前売券の販売ボランティアが活動して、文化祭の雰囲気盛り上げていました。

3 この報告集に掲載されていない学校の取組から

管内では、学校支援地域本部事業を実施していない学校でも、図書ボランティアの活動が活発で、読み聞かせや学校図書館の環境整備等が熱心に行われています。青森市浜田小学校のように、冬場の通学路確保のために雪かきボランティア活動をしている学校もあります。

4 今後に向けての課題と振興策

東青管内では、ボランティア活動に取り組む地域の方々が着実に増えてきています。この要因は、コーディネーターが、地域の情報を学校に流れるように工夫したり、学校の情報が地域に提供されるように調整役としての機能を発揮するようになったことが大きいものと思われます。また、ボランティア、あるいは、コーディネーター自身が、色々なボランティア活動を学校側に提案する様子もみられるようになってきて、地域ぐるみで学校を支援していこうという機運も高まりつつあります。これは、学校支援ボランティア活動についての学校側の理解が進んできた表れだと考えられます。

これからは、子どもの教育を地域全体で担うという機運をさらに高め、学校と地域の協働を更に推進していくことが大切です。そのためには、コーディネーターの持つ役割がますます重要になります。コーディネーターは、フットワークを軽くし、学校と地域を常に行き来し、学校支援ボランティアの学校側への支援の提案や学校側の支援のニーズを調整しながら、学校と地域が協働で取り組む仕組みづくりに関わっていく必要があります。その際には、学校の役割と地域の役割を明確にし、校長がリーダーシップを発揮できるよう取組の工夫も必要です。学校と地域の協働のキーマンとなるコーディネーターの資質向上とさらなるコーディネーターの育成も求められています。



西北管内の学校支援状況



1 学校支援状況の概要

西北管内の小・中学校では、どの学校の経営方針にも「地域との連携」「地域の教育力の活用」「開かれた学校」等が盛り込まれています。そのこともあり、全体的には学校支援ボランティア活動も活性化されてきています。

内容を見ると、小学校では総合的な学習の時間等における地域のゲストティーチャーの活用、中学校では環境整備型のものが多い傾向にありましたが、最近ではドリルの丸付けの学習支援等様々な活動を導入する学校も増え、学校支援ボランティア活動に対する意識は次第に高まってきています。

2 学校支援地域本部事業実施校の取組から

(1) 事業実施市町村や実施校の特色について

深浦町は今年度からこの事業を実施していますが、以前から読書サークルの活動が盛んなこともあり、読み聞かせの活動と学校図書館の整備を中心とした活動からスタートし、様々な活動へと広がりを見せています。

板柳町では、昨年度「読書のまち」を宣言し、町民の読書活動の充実の中で、子どもの読書活動の充実に努め、そのことに学校支援ボランティア活動を最大限に活用しています。また、コーディネーターは学校在籍（元も含む）の子どもの母親が担っていて、研修等により高いスキルを身につけるようになってきています。

鶴田町では、町内すべての小・中学校でこの事業を実施し、どの学校においても多様な学校支援ボランティア活動が展開されています。事業の計画書を自校の実態や課題を踏まえ、各学校が独自に作成していて、より学校のニーズにあった取組が可能となっています。

五所川原市では、この事業を実施することにより学校支援ボランティア活動がますます充実してきています。特にコーディネーターに退職教員を配置している学校では、コーディネーターが学校の実情に詳しいこともあり、ドリルの丸付けと先生方の指導補助等の取組も進められています。

(2) 読み聞かせ・学校図書館支援について

小学校での読み聞かせ活動は、学校により実施回数にばらつきはありますが、どの学校でもいろいろな手法で行われています。また、学校図書館環境については五所川原市立図書館の司書の協力を得て、その充実に取り組んでいる学校もあります。（五所川原市中央小学校）

(3) 学習支援分野について

ドリルの採点・集計作業の補助（五所川原第三中学校）、父母による国語の音読の聞き取り支援・1年生への筆順指導（五所川原市栄小学校）、版画の指導（五所川原市沖飯詰小学校）、パソコン指導（深浦町修道小学校）、運動会に向けた板柳音頭の指導（板柳中学校）、クラブ活動をすべてゲストティーチャーで指導（板柳東小学校）、りんごの生産体験学習（鶴田町水元中央小学校）などの活動が行われています。



(4) 文化活動指導、スポーツ活動指導について

板柳東小学校では地元の「太刀振り舞」のお囃子、鶴田町富士見小学校では「獅子舞」などの伝統芸能伝承のための活動が行われています。

(5) 安全パトロールについて

五所川原市三輪小学校では保護者が中心となって「みまもり隊」を組織し、児童の下校指導を行っています。また板柳北小学校では、毎朝、登校時の交通安全指導が行われています。

(6) 校外・校内環境整備について

鶴田町胡桃館小学校では花壇整備の活動が行われています。鶴田中学校では、業者の方を講師として校舎等の修繕技術を学び、保護者が実際に修繕活動を行いました。五所川原市金木小学校では門柱、遊具、特別教室等の校舎内外環境整備が行われました。

(7) その他

五所川原第三中学校では、PTA活動と学校支援活動を連動させるため、学校支援委員会をPTAの組織の一つとして立ち上げています。

鶴田小学校の「三世代ふれあい祭り」は家庭・学校・地域が連携して行われているPTA合同行事です。子ども、父母、祖父母、教職員が一堂に会して、昔遊び、読み聞かせ、もちつきなどを行い、交流を図っています。

3 この報告集に掲載されていない学校の取組から

鱒ヶ沢町西海小学校では、毎月1回（土曜日）子どもたちに学校ではできない自然体験をさせることを目的とした西海小学校自然塾という取組があります。

今年度は鱒ヶ沢町に4年に1度の大祭があり、西海小学校の子どもたちもチャンチャレンコという踊りにより参加しています。この貴重なイベントと子どもたちの体験を生かすために、大祭の歴史、各地区での踊りの違いなどを子どもと先生と地域の人達と一緒に学ぶ機会を設定しました。保護者以外の地域の方も多数参加し、学区総出での事業となりました。

4 今後に向けての課題と振興策

学校支援地域本部事業が始まり、たくさんの学校区で取り組んでいること、県や各市町での研修会や普及啓発の機会を効果的に持てたことにより、年々学校支援ボランティア活動は活発化し、内容的にも発展していることは間違いありません。

しかし、学校により取組方には大きな差があることも事実です。ここで、今一度、何のための学校支援なのかをはっきりさせる必要があるのではないのでしょうか。もちろん子どものため、学校のための活動ではあるのですが、実はそれを支える大人や地域のためでもあるわけです。学校も地域もしっかりとそのことを意識し、お互いに意見交換する機会や場をつくっていくことが最も重要な振興策だと考えます。



中南管内の学校支援状況



1 学校支援状況の概要

中南管内では、様々な分野で各校のニーズを踏まえた学校支援ボランティアを受け入れています。小学校では「登下校・交通安全・防災指導」「環境整備」「野球、スキー等の指導」「運動会、餅つき会等の学校行事運営」、中学校では「職場体験」「薬物乱用防止講習会」「登下校・交通安全・防災指導」などが特に多い分野としてあげられます。

2 学校支援地域本部事業実施校の取組から

(1) 事業実施市町村や実施校の特色について

弘前市では、「αネットワーク」とネーミングして第一中学校学区で事業を実施しています。地域に対しては“学校と関わりをもとう”をスローガンに、おやじの会、参観日等の臨時託児室、花壇づくり、学校図書館大改造などの活動を通してPTA以外の方の学校への関わりを強めています。また、子どもたちに対しては“地域にでかけよう”をスローガンに、地域の大人とのふれあいや子どもの受け皿としての地域活動を深めています。

平川市は事業を実施してまだ半年ほどですが、小和森小学校を中心に朗読指導、味噌づくりなどの地域性を生かした特徴的な活動を展開しています。

田舎館村では村内全小・中学校で事業を実施しています。遊具整備や環境整備、運動会、もちつき会などの学校行事の支援の他に、祝い亀づくり、豆腐づくり、獅子踊りなど伝統的なものにも取り組むなど、各学校のニーズを踏まえながら各地区の特徴を生かした活動に取り組んでいます。また、コーディネーターの養成にも計画的に取り組み、学校間のボランティア情報を共有するなどコーディネート機能を充実させています。

(2) 読み聞かせ・学校図書館支援について

弘前市時敏小学校では読書活動サークル「お話しさあ、くる！ふくろう便」が中心となって、母親目線の読み聞かせに取り組んできました。今では、読み聞かせをやってみたいという子どもたちを集めたキッズメンバーによる読み聞かせも取り入れています。また、学校図書館支援にも積極的で、季節の飾り付けはもちろん、年2回の「ふくろう通信」の発行、300冊の寄贈本からメンバーが選定し各学年に配架する「ふくろう文庫」、「ふくろうポスト」による本のリクエストの集約、カラーシールを活用した本の分類など、子どもたちの読書活動を一層進める環境づくりに取り組んでいます。

(3) 文化活動指導、スポーツ活動指導について

弘前市和徳小学校では、英語クラブ活動に保護者ボランティアを活用しています。ボランティアの方はクラブ担当の先生といっしょに、役割分担や少人数グループ指導を取り入れたチーム・ティーチング体制でクラブ指導にあたっています。クラブの指導計画は5、6年生の英語ノートを基本に立て、実際の活動内容についてはお互いにいろいろとアイデアを出しながら、どの子も楽しく活動できるようにしています。



(4) 安全パトロールについて

弘前市城東小学校では、子どもたちが安心して登下校したり、公園等で遊んだりできるように地域ぐるみの児童安全支援体制として、地区町会、地区公民館、老人会、婦人部、地区防犯協会、地区交通安全協会、駐在所、地区消防団など多くの団体が協力して、「無理なく、いつでも、どこでも」を基本に、負担にならない活動を実践しています。この活動に取り組んでからは、子どもたちの交通事故や不審者による声かけ等が1件もないなど、学区内の安全・安心が確かなものになりました。さらに、近隣の老人福祉施設でも散歩を兼ねて見守りや声かけの活動に参加してくれるなど、学校と地域の連帯感も深まっています。

(5) 校外・校内環境整備について

田舎館村では、西小学校、田舎館小学校で、教職員、保護者を対象にプール清掃、プールペンキ塗り、校舎内ペンキ塗りの講習会を実施し、講習会の中で専門家からコツを学びながら校舎内外の環境整備に取り組みました。

また、夏季休業中のプール開放が教職員と保護者による共同監視での実施になったのに伴い、村内全小学校で、教職員、保護者を対象にボランティア養成講座として消防署員による救命講習会を実施し、プール監視ボランティアの拡大に取り組んでいます。

3 この報告集に掲載されていない学校の取組から

平川市柏木小学校では、「柏木小学校区地域交流会」を立ち上げ、学校と地域交流会が連携しながら「はけじょこ大会（運動会）」「学習発表会」「ファミリースポーツ大会」「ふれあいデー」「PTA講演会」などの事業を実施しています。地域交流会だけでなくPTAを含めた地域全体の学校への理解・協力体制は非常にすばらしく、「荒馬踊り指導」「読み聞かせ」「クラブ活動講師」「花壇花植え」「花壇草取り」「交通安全指導」「グラウンド整備」など多方面で支援を受けています。

4 今後に向けての課題と振興策

中南管内での地域による学校支援は、これまで様々な分野で多くの取組がなされてきました。これまでの活動を整理しながら一層活発にするためにも、「地域ぐるみで学校を支える」という視点を共有しながら、社会教育と学校教育がますます連携を深めることが重要となります。社会教育においては市町村教育委員会を中心にボランティアに係る情報の収集・交換・提供の場づくりや研修体制づくりを進めること、また、学校教育においては「ボランティアの活用からボランティアとの協働へ」の意識のもと、校内にボランティアルームなど活動の拠点となる場所をつくり、学校とボランティア（地域）とのコミュニケーションを深めるなどの取組が求められます。そして、この取組をより効果的に展開していくためにも、コーディネーターを養成することがとりわけ大切です。



上北管内の学校支援状況



1 学校支援状況の概要

上北管内の学校支援地域本部事業は、七戸町、東北町、横浜町、三沢市の4市町で実施されており、合計5つの地域本部が活動しています。各地域本部では、それぞれの地域にあった事業を工夫し、地域に密着した支援を行っています。また、管内の学校支援状況は、小学校を中心にPTAの協力を得て、環境整備、安全支援、学校図書館支援等が行われており、中学校での活動も徐々に広がりを見せています。コーディネーターやボランティア、学校関係者等が参加しての研修会や報告会等では、学習支援等に関する質疑応答も多くみられ、その分野の支援についての関心が高くなっています。

2 学校支援地域本部事業実施校の取組から

(1) 事業実施市町村や実施校の特色について

七戸町では、町内すべての小・中学校で学校支援地域本部事業を実施しています。各本部には複数のコーディネーターがおり、それぞれのコーディネーターが得意分野を生かしながら協力して活動しています。各学校の要望と地域の特性を生かした支援をしていますが、その中で、夏休みに七戸高校の生徒が、町内の小・中学校で丸付けなどの学習支援を行っています。

東北町小川原小学校では、以前から保護者や地域の協力が盛んな学校で、地域と密着した学校支援を行っています。行事ボランティアとして、田植えから脱穀、収穫祭までの一貫した支援や学習支援ボランティアとして、体験学習やスポーツテスト補助の支援を行っています。

横浜町有畑小学校では、今年度から学校支援に取り組んでいますが、学校と地域が密着していることもあり、花壇整備や学校図書館整備に加え、学習支援にも積極的に取り組んでいます。コーディネーターを中心に、「ういず みい」カード（支援依頼書）を活用して、子どもたちといっしょに活動しています。

三沢市古間木小学校では、今年度から事業を行っていますが、長年にわたって、町内会や老人クラブによって学校支援ボランティア活動が行われてきた地域です。町内会による夏休み中の「おはよう広場」や、老人会によるジャガイモの収穫体験などの今までの活動を継続しながら、学習環境の整備や学習支援に力を入れて活動しています。

(2) 読み聞かせ・学校図書館支援について

七戸町天間西小学校では、寄贈された本を整備し、保護者用のコーナーを設けて紹介しています。また、同町の榎林中学校では、お話の会による読み聞かせを行っています。各校で学校図書館支援から学校支援ボランティアへの広がりを見せています。

(3) 学習支援分野について

七戸町では、「わたしたちの町の名人発見」と題して、公民館を会場として、地域の方々を講師とした授業を行いました。また、学校に9台の裂織機を運び入れて、「裂織り体験教



室」を実施しています。

東北町小川原小学校では、スポーツテストの進行・計測の補助としてボランティアが活動しています。また、老人会など、地域の方と協力して、昔遊びや縄跳び等の世代間交流や田植えから収穫までの体験活動を行っています。

横浜町有畑小学校では、ミシンがけ補助や社会体験学習補助、読書甲子園（子どもたちが3冊の本の紹介を競う）の審査員として活動しています。

三沢市古間木小学校では、老人会と協力してジャガイモの収穫やおやつ作りを行っています。

（4）文化活動指導、スポーツ活動指導について

横浜町有畑小学校では、ボランティアの提案からバトン指導が始まり、バトンクラブがつくられ運動会等で発表されました。また、東北町小川原小学校では、部活動ボランティアが組織され、指導や援助を行っています。

（5）安全パトロールについて

東北町小川原小学校では、安全パトロール隊が組織され、4～10月の期間、毎月決まった日に、登下校時の安全確保と指導を行っています。

（6）校外・校内環境整備について

七戸町天間西小学校では、町連合婦人会50名の協力を得て、花壇や校舎周辺の整備を行いました。また、天間東小学校では、老人クラブの協力を得て、重機などを使って松の木の剪定やペンキ塗りをしています。

3 この報告集に掲載されていない学校の取組から

東北町東北東中学校では、デイサービスセンターや社会福祉協議会と連携して体験活動を行ったり、地域と協力して太鼓の練習を行い、祭りで演奏をしたりしています。

野辺地町では、地元の高校生の協力を得て、小学校5・6年生を対象とした、2泊3日の「ふれあい通学合宿」を行っています。

4 今後に向けての課題と振興策

上北管内の学校支援状況は、年々活発になってきています。PTAや町内会、老人クラブ等と協力・連携しながら地域に密着した支援が行われています。これは、学校（子どもたち）に対する地域の人たちの思いが大きな原動力になり、学校側の思いと一致した結果だと考えられます。

このことから、学校支援をさらに推進するためには、学校支援ボランティアの有用性を地域の人たちと学校関係者が認識し、それぞれの地域・学校にあった取組をまず始めることが必要だと思います。そのためには、研修会や資料を通じて実践事例等を紹介できる情報提供の機会を多く持つことと、ボランティアとコーディネーター、そして、窓口教員の発掘・育成（人づくり）が必要になってくると考えられます。



下北管内の学校支援状況



1 学校支援状況の概要

これまで下北では、100校近くの小・中学校が地域ごとに存在し、小地域（学区）の中で学校と地域が密着・一体化した形で相互支援が行われてきました。しかし、時代の変化や児童生徒の減少等により急速に学校の統廃合が進み、その数も40校弱に減少し、学区は今までの小さい地域から広域に変化し、今までの支援の在り方について見直し、転換期を迎えています。

2 学校支援地域本部事業実施校の取組から

（1）事業実施市町村や実施校の特色について

むつ市では、小・中学校の接続を円滑に進めるため小中一貫教育を推進していて、本部事業は第一川内小学校で展開しています。川内地域本部では工夫を凝らした取組を行い、今年度は公民館と連携し、ボランティアの方々の日常の支援内容を地域の方々に体験していただき、意見・感想を今後の活動の参考としました。

東通村では、学校統合により小学校、中学校が1村1校となり、互いの校舎が接続され、施設一体型の利点を生かした小中一貫教育を学校・保護者・地域が一体となり取り組んでいます。現在、学校支援の人材バンク登録者数は約50名で、学校のニーズを踏まえ、その対応を模索累積しながら進めています。

佐井村は、日露戦争の際、手製の赤十字旗を翻し、多くの負傷兵を治療した村出身の故三上剛太郎医師の博愛精神を受け継いで、「赤十字の里づくり」構想を展開し、学校教育の中にも浸透しています。佐井村では、今年度より新規に佐井村学校支援地域本部として、佐井小学校と佐井中学校で取り組んでいます。

（2）読み聞かせ・学校図書館支援について

第一川内小学校では、地域のサークルと連携して、1・2年生に対して、読み聞かせ活動を行い、さらに1年生には、週1回、朝の読書時間に読み聞かせを行なっています。その中に、紙芝居やペープサートなども取り入れています。

佐井小学校では、朝読書、紙芝居、読み聞かせ等の支援が行なわれています。また、コーディネーターに時間の余裕があるときは、パソコンの図書台帳へのデータ打ち込みや整備の支援も行なっています。

（3）学習支援分野について

第一川内小学校では、年間50回に及ぶ2～6学年のコース別学習（国語・算数）の丸付けに支援をしていて、学校がボランティアの必要性和有効性を強く感じています。計画がしっかりしているため、年間を通してのボランティアの人数確保についても円滑に進んでいます。

佐井小学校では、定着時間のプリント丸付け、家庭科・水泳教室・校外学習時の補助などを行っています。教職員からの、支援や補助などの依頼がしやすいように、コーディネーターが積極的に教職員のところへ連絡に向かい、緊急なものでも対応できるようにしています。



(4) 文化活動指導、スポーツ活動指導について

東通村では、中学校にある部活動が小学校にも新設され、連続した指導ができるようになりました。村の教育施策の一つとして外部指導者登録制度を導入し、教職員と共に安全かつ効率的な指導で大きな成果をあげています。

(5) 安全パトロールについて

第一川内小学校では、登下校にあわせた安全パトロールの他、地域の方々の日常的な買物・散歩時、新聞配達時の見守りを意識していただいています。

東通村では、学校、PTA、地域のボランティアが連携協力して、子どもの登下校時の安全指導、広域になった学区に対応していくため広く情報を募り、危険箇所をいち早くキャッチし、看板設置作業などを行い、安全確保に努めています。

(6) 校外・校内環境整備について

第一川内小学校では、環境ボランティアとして、シルバー世代の方々を中心とした、樹木の剪定・管理、雪囲い、学校畑などの支援が行なわれています。

(7) その他

実施校でのその他の取組をいくつか紹介します。①職員会議や学校行事の際に全職員が子どもの指導に当たれるよう、電話の対応や職員室の留守を預かったりもしています。②年度初めの低学年の給食準備や配膳の支援は、効果が大です。③長期休業時の子どもが作った作品の展示やそのレイアウトをしています。④ボランティア室の設置は、全ての面の効果の源です。

3 この報告集に掲載されていない学校の取組から

むつ市内小学校では、スキー教室の実技指導・支援、新入生の下校指導や運動会等の運営支援、中学校では、職場体験活動やインターンシップに関わる支援が多くみられます。郡内小学校では、運動会等の学校行事の運営支援や安全に関する支援、中学校では、体育祭等の学校行事に関する支援が多くみられます。

下北は、伝統（郷土）芸能が盛んな土地柄で、教育活動に取り入れている学校があり、地域の方に手習い等の対応をしていただいています。

4 今後に向けての課題と振興策

「子どもは地域の宝」です。「地域の子どものため」や「子どもたちの最善の利益のため」であれば、地域の方々は必ず動いてくれます。下北はそんな地域です。

学校は地域を構成する大きな要素です。その意味からも子どもたちの教育や健全育成は学校だけで担うものでなく、地域全体の課題であるということを強く意識していただく必要があります。

地域が学校や子どもにできること、学校や子どもが地域にできることを双方が意識し、学校支援という一方通行的な流れだけではなく、普段から学校と地域が相互に補完・活用し合える形をつくっていく必要があります。学校と地域の協働は、「地域づくり」に直接結びついていくものと捉えています。

そのためには、学校と地域が今必要としているものを積極的に外部へ相互発信すること、発信された情報を相互受信し合えるシステムの構築が急務です。



三八管内の学校支援状況



1 学校支援状況の概要

三八管内では、八戸市と南部町と五戸町の3市町で学校支援地域本部事業が実施されています。

今年度、関係事業として「学校支援ボランティア研修交流会」や「窓口教員セミナー」等が管内で開催されましたが、その研修会の参加者の様子などから学校支援ボランティア活動の推進に対しての全体的な気運の高まりが感じられます。実際的な学校支援ボランティア活動も、各地域の実態に応じた工夫ある実践が数多く報告されています。

2 学校支援地域本部事業実施校の取組から

(1) 事業実施市町村や実施校の特色について

八戸市では、社会教育行政施策として以前から発足している“教育ボランティアセンター”の充実と、学校教育行政が市内全小・中学校で推し進めようとしている“地域密着型の学校づくり”の相互作用により、各学校の実態に応じて工夫された数多くの実践が報告されています。ボランティアの方々の声を大切にしようとしているコーディネーターの方々の前向きな姿勢により、ボランティアの方々の充実した様子が数多く報告されています。

南部町では、以前から推進してきた“学校と地域ネット推進事業”を軸にしながら、全小・中学校を対象にコーディネーターを増員し学校支援地域本部事業の拡大を図っています。昨年度よりもさらに一歩進んだ着実な取組が見られています。

五戸町五戸小学校は今年度から新規に取り組んでいます。そのため実質の活動期間は数ヶ月間ではありますが、コーディネーターの方々の積極的なアプローチにより、学校図書館の環境整備を入り口にして、徐々に活動の幅を広げています。

(2) 読み聞かせ・学校図書館支援について

八戸市吹上小学校では、貸出日と修理日を定期的に設けて積極的に活動しています。南部町福田小学校では本のカバーかけ活動を実践しました。また、八戸市小中野中学校では、昼休みにボランティアの方が学校図書館にいてことで学校図書館の利用のマナーなどの向上も図られました。

(3) 学習支援分野について

学芸発表会の大道具ー背景画ー作成活動（八戸市中居林小学校）、低学年の着替えやシャワーなどの水泳指導補助（八戸市日計ヶ丘小学校）、脱穀から餅つきまでの体験指導（八戸市根岸小学校）、特別支援児童への学習支援（八戸市白山台小学校）、低学年の漢字計算ノートの丸つけ補助（八戸市明治小学校）、全校登山での安全指導補助（南部町名久井小）、清掃時の見守り活動（南部町名川中学校）などの多くの活動が実践されました。

(4) 文化活動指導、スポーツ活動指導について

八戸市第一中学校では、文化祭展示に向けた書写指導が行われました。また、八戸市明治中学校ではソフトテニスを中心に部活動への指導が行われています。八戸市北稜中学校では



長期休業中のプール監視の活動も行われました。

(5) 安全パトロールについて

小中野小学校では、防犯のための見回りや毎日の立哨活動をはじめ、災害時の全校一斉退下時には町内の連絡網を使った見守り体制ができています。

(6) 校外・校内環境整備について

プール更衣室のペンキ塗り（八戸市柏崎小学校）、玄関ホールの生け花管理（八戸市第三中学校）、廊下のペンキ塗り（八戸市小中野中学校）、トイレや体育館扉の修繕（八戸市根城中学校）、金魚の水槽清掃（南部町名川中学校）などの活動が行われました。

(7) その他

小中野中学校では、ボランティアルームが校内に整備されたことで、地域の方とお茶を飲みながらの交流が図られています。また、小中野小学校では、コーディネーターの名札が職員室内に設置されたことで、コーディネーターの方々の活動意欲が増したという報告も見られました。

3 この報告集に掲載されていない学校の取組から

新郷村では、村内の全小・中学校に対して地域や親子のふれあいを深めることを目的とした委託事業を実施しています。地域の方々と共にもち米の苗植、そば植え、そば刈り、そば打ち、しめ縄作り、花の苗や球根植付けなどの活動を行っています。地域に住むお年寄りの方々にとって、学校へ足を運び子どもたちと直接ふれあえる楽しい時間となっているようです。

4 今後に向けての課題と振興策

ボランティアの方々の充実感により、繰り返しボランティア活動を希望される方々も多いようです。ボランティア活動の依頼も頼みやすい方を優先する傾向となって、メンバーの固定化という新たな課題が見受けられるようになってきました。学校支援という活動内容の充実だけを注目するのではなく、地域の教育力の向上や地域住民のコミュニティの再生などの本来の目的を再確認していくことが求められます。また、学校間で取組内容に質的・量的な格差も開きつつあることから、社会教育行政としての位置づけの明確化や支援の方法を検討する必要も感じられます。

